

アートの力は、まずは、その深淵を直視し、いうならば「タイムクレヴァス」のかたわらに佇むことによつて、個人と社会、国家、性差、世代差、人種、宗教といった相互の差異を、現在の自分自身が置かれている状況を含めて、徹底して感じ取ることから生まれ出てくるのではないでしようか。(水沢勉 2008 総合ディレクター)

[2008 公式サイト 全体テーマ TIME CREVASSE (タイムクレヴァス)] より <http://www.yokohamatriennale.jp/2008/ja/outline/>

展覧会は、運動態である ワーク・イン・プログレス
場にかかわる サイトスペシフィック・インターラクシオン
人とかかわる コラボレイティド・ワーク

[2005公式サイト デイレクターズ・メッセージ] より http://www.yokohamatriennale.jp/2005/jp/director_message2.html#2

そこでふたたび「ゲームの規則」の出番がやってくる。私たちは、アーティストたちに、自分たちがトリエンナーレ会場にいる三日間のあいだのみ観客がそれを体験できるといふ時間の枠組みに沿ってパフォーマンスをするよう求めているだけではない。彼らには、空間を構成することも

頼んでいる。たとえばケリス・ウイン・エヴァンスがスロビング・グリッスルとの共作をしつらえる空間には「超指向性スピーカー」が設置される。この装置によって生み出されるパフォーマンス空間は、鑑賞者にとってもつねに変化して二度として同じ性質をもたない特殊な環境を形成する。鑑賞者は移動することによって作品を構成し、鑑賞者が作品となるのである。

[2008 公式サイト 展覧会主旨 ゲームの規則] より <http://www.yokohamatriennale.jp/2008/ja/curator/outline/>

つくり手と見る側が同じ時間のなかで作品がそのつど進化していくライブ感を享受することができる。そしてそれらの変化していく作品を通して、今日的な芸術作品の新たな方向性の一部が見えてくるような気がする。そこに見る側とつくり手のコラボレイティブな展覧会が生まれ、その手法としてのワーク・イン・プログレスを提案することができらるだろう。ここに「展覧会は、運動態である」ことの真意がある。

(川俣正 2005 ディレクター)

「21世紀における芸術の役割」 神奈川県立音楽堂での講演記録より

20世紀の文化は高度に専門化はしましたが、ともすれば異なった領域との間の関連性を見失い、個別の分野に分断されがちであったといえるでしょう。私

たちは美術を中心にしながらも、単に専門性に安住するのではなく、より柔軟な立場から、各分野の境界を越えた包括的なアプローチの可能性を探究して行こうと考
えています。　今まさに始まるうとしている大きな変革の時代に向けて、アートと社会とを結ぶ新たな総合のヴィジョンを打ち出すことが、この

プロジェクトのさらなる重要な使命であるからです。

〔2001公式サイト　ディレクターからのメッセージ〕より <http://www.jpif.go.jp/yt2001/yt2001/artist/index.html>

5キロ、やせましたよ。

(窪田研二 2008 関連プログラムマネージャー)

「アートボランティア横浜スタイル」より

行政とディレクターがかみ合う、ディレクターとサポーターがかみ合う、行政とサポーターがかみ合う、この関係が築けるかが一番大事。

（川口良一 2008 組織委員会役員）

「アートボランティア横浜スタイル」より

ぼくは現代アートの一番の面白さって、つくっている人が自分たちと同じ時代を
生きていることだと思っている。いくらすぐくても、ゴッホとかルノアールとは、
たとえば9.11のことを話せないじゃない。(芹沢高志 2005 キュレーター)

「ヨコハマシティアートネットワーク芹沢高志さんへのインタビュー」より <http://www.yocan.jp/archives/cat17/index.html>

横浜トリエンナーレは、アートが社会性を持つということを実現する可能性を秘めている。(建畠哲 2001ディレクター)

「ヨコハマシティアートネットワーク 建畠哲さんへのインタビュー」より http://www.yycan.jp/archives/2004/12/post_12.html

芸術は社会の中にあるのだから、社会と渡り合う必要があるんです。美術館では芸術のための芸術は○です。しかし、

それを国際展でやることは×です。(建畠哲 2001 ディレクター)

「ヨコハマシティアートネットワーク 建畠哲さんへのインタビュー」より http://www.ycan.jp/archives/2004/12/post_12.html

継続していくことに意味がある。国際展が定期的に開催されるイコール時代の証明が蓄積されていくことだということです。たとえば、その当時、何が美しいと思われていたかというような美的感受性などが時代を反映する大きな蓄積だと考えるからです。（建畠哲 2001 デイレクター）

「ヨコハマシティアートネットワーク 建畠哲さんへのインタビュー」より http://www.yjcan.jp/archives/2004/12/post_12.html

1年くらい、かなりの時間をつぎ込むため、トリエンナーレが終わると直ぐに元に戻れない。非日常から、日常に戻れないという感じがある。ドクメンタなんかやると、廃人になるといわれているけどね。

(南條史)

生 2001ディレクター)

「ヨコハマシティアートネットワーク 南條史生さんへのインタビュー」よの <http://www.ycan.jp/archives/2005/02/index.html>

世界中の国際展を実際に見て周り

「どの国際展も似たようなものだ」と言っている人は、実は世界中でもほんのわずかの人数しかいないだろう。その人たちの言っていることを基準にしても実は、それほど意味はない。

翻ってみれば、日本の一般の観客は普通、国際展とは何か、そこでどのような作

品が紹介されているか、たぶん全く知らないわけです。(南條史生 2011ディレクター)

「ヨコハマシティアートネットワーク 南條史生さんへのインタビュー」より <http://www.ycan.jp/archives/2005/02/index.html>

一年経って改めて思うのは、この展覧会はやって良かった。日本もやっぱりこのような展覧会をやるべきだったという思いは変わらないんですけど、第一回から次回以降にどう繋げていくか。動員数とか、数の上では大成功だったと言われているんですけど、現代美術を初めて見に来たという観客の方がかなり沢山いたのですが、その人たちがまた次に見に来てくれるだろうか。あるいは、その人たちが、それまでのあいだ、何も見るものがなかったとしたら、それは良くないんじゃないかとか、そういうことを考えるようになりました。(児島やよい 2001 実行委員)

会事務局)

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/1552/talk.htm>

当初は、観客とどう接しているのか戸惑って大変だった。毎日、違うお客さんを目の前にするわけですから。その際、作家であるぼくと一般の人たちの仲介役となってくれたのがボランティアのみなさん。

(大巻伸嗣 2008 参加アー

ティスト)

「アートボランティア横浜スタイル」より

国際展で大切なのは、やはり地元の文化に尽きる。そして横浜は、人や文化を活かしていける都市だと思いました。

(大巻伸嗣 2008 参加アーティスト)

「アートボランティア横浜スタイル」より

インターコンチは船の形をしているが、ぼくたちは諭えるならば、太平洋のど真ん中から自力で難破船を操縦して陸地にたどりつかなければならぬ船乗りのようなものだった。十人くらいの学生は何が何でも自分たちがやり遂げなければならぬという決意を共有してくれているが、毎日入れ替わる何十人かの手伝いの学生たちは、大学が始まり忙しくなれば来てくれなくなるだろう。天気予報はまったく当てにならない。ま

さしく「風まかせ」なのである。ぼくは迷信やまじないは信じずに生きてきたが、ここまで追い込まれると「神だのみ」しかなかった。地鎮祭やお祓いなどの儀式も、こんな風に追い込まれ

た人間たちのぎりぎりの願いから生まれたものであろうと初めて得心がいった。(室井尚 2001本展作家)

「巨大バッタの奇跡 室井尚著 株式会社アートン発刊」より

いつだったか中野はこんなことをぼくに話してくれた。「十月二十九日にバッタが破れた時に、風が強いからみんな下に降りたじゃないですか。そして、ずっと見ていたら突風が吹いて顔が大きく破れた。それがびりびりと裂けて行って布がべろんと裏返って、めくれ上がった目玉の裏側が出て来たじゃないですか。よくわからないけれど、「リアル」って要するにあの時穴が開いた瞬間に見えたものじゃないかと思っただんですよ。そして演劇だって美術だって何だって要するにああいう瞬間を作り出そうとする挑戦だと思っんです。」(室井尚 2001 本展作家)

「巨大バッタの奇跡 室井尚著 株式会社アートン発刊」より

大量の招待客と、大槻橋の大ホールでのパーティ。おそらくはキュレーター同士での連携も、アーティストとの対話もほとんどないまま、統一テーマの「タイム・クレバス」に合わせて、企画者とアーティスト同士の間広がる無数の巨大クレバスという空虚ばかりが目につく展覧会である。

ある意味で前回まで引き継がれてき

ていたアジアン・ポップ的で「楽しい現代美術」的な作品はほとんど影を潜めており、何かヨーロッパのストアハウスでの「まじめな現代美術作家」展のよ

うな印象。ヨーロッパのキュレーターたちの好みなのだろう。(室井尚 2001本展作家)

【短信・Virtual Time Garden】より

だから、はっきり言うと、胡蝶蘭とつてきてそこの山に植えたら生えるか？だからその、特殊なものと考えずに、現代美術、アートというものをひとつの野性の中における、自然のフィールドの中における植物とか、そういうもんと考えたらいい。(椿昇 2001 参加アーティスト)

「ヨコハマシティアートネットワーク 椿昇さんへのインタビュー」より <http://www.wyca.n.jp/archives/2005/02/index.html>

そういう非常にいびつな面をひきづったまま横トリがスタートしたのね。

(椿昇 2001 参)

加アーティスト)

「ヨコハマシティアートネットワーク 椿昇さんへのインタビュー」より <http://www.wy.can.jp/archives/2005/02/index.html>

例えば、わたしが関わった「HAMMAFE」のメンバーには、「トリエンナーレ・サポーター」であり「はまことり」のメンバーである「非専門家的な観覧者」がいるが、彼女はこうした経験をもとにプロフェッショナルなライターの仕事を手掛けたり、展覧会の企画に没頭したり、いつてみれば、「横トリ05」を出発点として、もう後には引けないところまで進んでしまっている。この意欲的な実践は、「横トリ05」のキュレーターを務めた山野真吾が打ち明けるように「じつは鑑賞者がいちばんつまらない」という厳然たる事実、「横トリ05」に関わった「非専門家的観覧者」の多くが気づきはじめてしまったということにはかならない。であれば、

そうした素人による自発的で能動的な諸々の活動に、「手を貸して応援することこそ専門家の仕事ではないのか」。

「ビエンナーレの現在 暮沢剛巳／難波祐子編著」第3章市民芸術論的展開（福住廉）より

気付いたことがあり、上の人形を見逃す方がたまにいますが **子供は絶対に見逃さないんですね。** ただ、どの方も（僕

自身も）興味を持って見ていたので、各々の興味の対象がどこなのかなどさういふことを見るのは、この立場ならではの楽しみがありました。

「アバトーンを指摘して」よ http://blogs.yahoo.co.jp/colic_526/15951775.html

「ゴミ箱の中を覗き込むとたくさんのおさつきまで作品と呼ばれてた破片たちで一杯だった。」「現代アートって……なんなのでしょうね。」

「友井隆之の計画」より <http://haganeya.blog.eonet.jp/default/cat3417245/index.html>

現代アートって、古典的な美術とは違って、誰が見ても「美しい」と感じるようなものではない。今日、休憩中に会場を回って見たけれど、正直なところ「良く解らない」と思った作品も多かった。まあ大抵の人がそこで現代美術に拒否反応を起こして離れてしまおうけど、それじゃもったいないよ。不思議に感じたら、率直に作家に尋ねてみれば良いんじゃないかな。

作家の意図が正解というわけでは決してないけれど、自分ひとりの目では見えなかった何かが見えてくると、作品はどんどん面白くなってくる。

【おまへのびおひじ】 http://yaplog.jp/dynamite_7/monthly/200509/

「まずは乗船してごらん下さい。皆様の方でこの船を動かしていきましょう。この船を動かしていくのは私たち全員の力です。なんて言われて参加したら、それは単なるハリボテで、船長はボランティアのことを快く思っていないのか、本当は横浜市からの押し付けなのか、その辺りが判らないまま、ガレー船の最下部でワーキングプアの人たちが隣にいなような雰囲気なかで奴隷状態のボランティアです。」「主従関係も何も結んだ覚えは無いんで。奴隷に見えて市民ですから。参加しない権利は当然、持っています。逃げられないように頑張れ。」

〔美術検定受験対策はどこうしてる?〕より <http://www.edita.jp/bijutu/one/bijutu55.html>

大丈夫か！トリエンナーレ！

「恰幅の良い彼のblog 〜横浜B級グルメ〜」よゝ <http://taputapu.blog18.fc2.com/blog-entry-821.html>

一般の美術館と大きく違う点は、「コミュニケーションの場」であることだと最終的に自分なりに判断。観て、聞いて、話して、語り合って、そして触れ合うアートの祭典。それが横浜トリエンナーレではないかと。

【武代目・青い日記帳】より <http://bluediary2.jugem.jp/?eid=1521>

開催した横浜の市民があんまり訪れる機会がなかったんじゃないか。

(横浜トリエンナーレ)

2008 ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」より

同じ作品の前に3日も4日もことによると7日も8日も座っているとその作品が
だんだんわかってくるのです。

(横浜トリエンナーレ2008 ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」より

(活動した方) ボランティア活動に満足しましたか。 ↓ 「大変満足」 今まで逃げてきた人との接触をスタッフ
の力を借りてやらせてもらえたから。(多少は社会性も見に付いたかな? …?) (横浜トリエンナーレ2008作品看視ボラ

ンティア)

「アートボランティア横浜スタイル」 ボランティアアンケート集計結果より

(活動した方) ボランティア活動に満足しましたか。↓「満足」前回より、スタッフの皆さんのボランティアへの気遣いを感じましたが、それとは別に
「仲間」というより「お客さん」の扱いのようでも淋しくも感じました。(横浜トリエンナーレ

2008 作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

(活動した方) ボランティア活動に満足しましたか。 ↓ 「満足」 担当した作品と長時間関わることができ、 違う視点からの見方ができるので良かったです。

(横浜トリエンナーレ 2008 作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」 ボランティアアンケート集計結果より

(活動した方) ボランティア活動に満足しましたか。↓「満足」ボランティアをさせていただき、作品に関する理解、興味が深まったことと、**横浜市民**

として**横浜を代表するアートイベント**に関わられて良かったと思います。
(横浜トリエンナー

レ2008 作品 viewing ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

(不安があった方) 活動開始後、不安は解消されましたか。↓すぐに解消された 私は人見知りなので中々みんなの中に這入って行けない性格でしたが、疲れた日に、ご一緒の皆さんと一杯飲む機会があり、その後も数回ご一緒しています。こんな機会を開催期間の途中で、主催者の方が作って頂くと、大変運営もスムーズではないか

と考えています。(横浜トリエンナーレ2008作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

(不安があった方) 活動開始後、不安は解消されましたか。↓「すぐに解消された」 理不尽なお客様のクレームがあるのが嫌だったが、実際には誠実に対応すれば言うことも聞いてくれるお客様もいるし、またボランティア活動中に逆にお客様から気を遣ってもらったこともあったため。(横

浜トリエンナーレ 2008 作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

参加して良かった会場、好きになった会場はどれですか。↓「三溪園」きれいな、気持ち安らぐ、季節感を感じる3K園でした。 思い切って来てよかった。(横浜トリエンナーレ 2008 作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

参加して良かった会場、好きになった会場はどれですか。↓「新港ピア・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)」 NYKの中西さんの作品が好きです。それを見て触りたくてうずうずしている子供がかわいい！でもハラハラします！！？ (横浜トリエンナーレ 2008 作品看視ボランティア)

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

このような大規模な展覧会でボランティアはどのように関わるべきでしょうか。↓「あくまでサポートの立場が良い」有償のスタッフとボランティアはつきり区別すべき。ボランティアは無償のバイトではない。交通費まで払って手弁当で来ているのに、要求が多いと感じた（誤解のないよう付け加えると、現場では一生懸命配慮してくれたが、主催者側に誠意がないと思った）。だからと言って**作品の情報もほとんど提供しないでサポートせよ**というのは失礼に感じる。最初は休憩時間や時間外に作品を見て回るのも控えてほしいと言われてがっかりした。

監視する作品のことくらいよく知っておきたいのに。（横浜トリエンナーレ2008 作品看視ボランティア）
「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

今回参加できて良かったと思う。自分と接点の無かった分野の芸術をじっくり観れたり、近くにいられてすごく楽しかった。ただ今回の作品はアート好きな人にとってはすごくアートを追求した形の作品が多く楽しめたと思うが、一般のお客様にとっては映像が多かったり、**既に終わってしまった**パフォーマンスの残骸があったりとわかりにくいものが多かったように思う。 実際お

お客様からわからないといった不完全燃焼な感想を言って帰る方が多く聞いた。アート好きのためなのか、もっと知らない人を巻き込むためなのか（知ってもらうためか）、どちらに焦点を合わせているのか。誰のためのトリエンナーレなのかよくわからないなあ、と行ってしまった。個人的にはとても楽しめました。

（横浜トリエンナーレ 2008 作品視聴ボランティア）

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

ボランティア募集の時点でもあまりにも情報（どういう活動があるのか？具体的にどんな事をするのか）が無さ過ぎだと思いました。前回ボランティアをしていなかったらすごく不安だったと思います。それからボランティアに対して「どういうスタッフがいるのか」「作品についての説明」「会場についての説明」など、もっと具体的に書面で事前に教えて欲しかったと思います。お客様に聞かれても答えられず 「まったくボランティアはダ

メだな」と思われているなど感じるのはつらいものです。 次の横浜トリエンナーレが開催されるのをと

ても楽しみにしています。やってくださいね、是非。（横浜トリエンナーレ 2008 作品看視ボランティア）

「アートボランティア横浜スタイル」ボランティアアンケート集計結果より

イベントがはじまるまで、また開催期間中も、人が集まって話し合える場所が欲しい。
会場近くに点在しているのが理想。外国人アーティストの行き場としても。(どうなる？どうする！「横浜トリエンナーレ2005」参加者の意見)

【YCAN 横浜トリエンナーレ2005・市民広報】より <http://hamatori.exblog.jp/111/>

「サロン・ド・トリエンナーレ」(アーティストやアートに興味ある人などが気軽に集えるような場所)といったようなところや

そこで繰り広げられることの過程が見どころにもなるし、トリエンナーレ後の継続性にも生きる。(どうなる? どうする! 「横浜トリエンナーレ2005」参加者の意見)

「YCAN 横浜」 - 横浜トリエンナーレ2005・市民広報 - | <http://hamatori.exblog.jp/111/>

横浜市全体で盛り上がるにはギャラリーや美術館、ミニシアターなど普段からアート活動をしている団体や人などを中區から枝葉に広がるよう横浜市全体を巻き込む。(積極的に参加してもらおうよう、予算もそちらにつける)

(どうなるっ？どうする！「横浜トリエンナーレ2005」参加者の意見)

「YCAN 横浜111」 - 横浜トリエンナーレ2005・市民広報」より <http://hamatori.exblog.jp/111/>

「決定された具体的な企画案」 トリエンナーレ・アーカイブルーム … 横浜トリエンナーレを永続

的に開催することを考え関係者しか見ることができないようなものも含めた前回や今回の横浜トリエンナーレの資料を閲覧できる場所を横浜市内に作り公開する。

「ヨコハマシティアートネットワーク 客船氷川丸にて横浜トリエンナーレ 2005 の記者発表開催！」より <http://www.ycan.jp/archives/2005/01/index.html>